

リサイクルを進めていきましょう

大胡・宮城・粕川地区も同じ方法で

大胡・宮城・粕川地区は合併後の移行期間を経て「ゴミの出し方が変わり、今年四月から全市域で統一されたゴミの分別・収集が始まりました。しかし、三地区では分別の細分化でゴミ出しの手間が増えるとともに、分がりにくい点が悩みの種という声も。そこでゴミの分別やリサイクル、減量について、清掃業務課で話をお聞きしました(担当は市民編集委員・大沢、石原)。

問い合わせは同課 ☎ 890-6273 へ。

なぜ必要なのかなかなか分別

プラスチック容器、瓶・缶、ペットボトルなど、資源ゴミの分別は細かく、その上、洗ったりふたを取ったりと手間が掛かります。また、家庭内で保管するゴミ袋の置き場にも皆さん頭を悩ませているのではないのでしょうか。



さらに、分別が細分化されて集積所へゴミを出す回数が増えることは、特に高齢者に

は大きな負担です。「なぜ、ゴミの分別は必要なのか」考えてみましょう。

毎日1人当たり1キログラムのゴミ

平成十六年度にわたしたちが出したゴミの量(大胡・宮城・粕川地区を除く)は一人当たり年間約四百キログラム、毎日1キログラム以上になります。その処理に年間三十九億円、一人当たりで一万三千五百円も掛かり、これに税金が使われています。

集積所へ出してしまえばゴミのことは頭から消えてしまいがちですが、実際には燃やしても砕いてもゴミが消えてなくなるわけではありません。集積所はゴールではなく、「埋

め立てられるか」「リサイクルされるか」の二つの道の別れ道、いわば、ゴミ処理の玄関口とも言えます。

集積所へゴミを「捨てる」のではなく、「預ける」という意識が大切ではないでしょうか。

最終処分場の寿命を延ばすには

排出されたゴミのうち可燃ゴミは燃やされ焼却灰に。また、リサイクルできない不燃ゴミは細かく砕いて、最終処分場に埋められます。この量が年々増加し問題になっています。

平成十五年、新たに最終処



収集車が大胡クリーンセンターへ

最終処分場の建設には、地元の人たちの理解と協力が不可欠です。

リサイクルできるゴミを分別して可燃ゴミを減らし、最終処分場の寿命を延ばすことが何よりも大切。プラスチック容器、瓶、缶、ペットボトルの四種類はリサイクルできます。しっかりと分別することの大切さが理解できるのではないのでしょうか。

ゴミの分別や



広大な最終処分場に焼却灰や不燃ゴミが埋め立てられます

気を付けて資源ゴミの出し方

資源ゴミは業者へ引き渡されますが、集積所に出された資源ゴミは汚れが付いたままだったり、異物が混入されていたり、分別が間違っていたり

り、回収したままでは業者に引き取ってもらえません。清掃工場でも選別を繰り返して、洗浄しますが、機械で処理できない作業が多く「一人の手」が頼りです。

はさみやスプレー缶などの危険物が入っていたり、容器に付着した汚れが腐敗して悪臭を放つたりするため、特に、選別作業は悪臭と危険との戦いでもあります。

こうした経費を削減するためにも、わたしたちは資源ゴミの出し方をきちんと守らなくてはならないのです。

活用しよう紙リサイクル庫

新聞や雑誌、段ボール、牛乳パックなどの有価物集団回収

減らす努力をしませんか 毎日の買い物や生活を見直して

ゴミを集積所へ当たり前のように出し、その先がどうなっているのか、なかなか考える機会もない人が多いのではないのでしょうか。しかし将来、埋め立て地が無くなればゴミ回収も困難になるという現状を知りました。

まず「ゴミになる物を買わ

収が大胡・宮城・粕川地区でもスタート。大きな成果を上げています。三地区以外では、以前から行っています。最近では回収の担い手不足から回収量も横ばいになってい

そこで、集団回収を利用できない人のため、常設の紙類回収場所「紙リサイクル庫」を下表のとおり、市有施設六カ所に設置。土日曜に持ち込みができる場所もあります。都合で有価物集団回収が利

6カ所にある紙リサイクル庫		
施設名	所在地・電話番号	回収日時
東部清掃事務所	亀泉町 269-9316	平日の午前8時30分～午後5時15分
西部清掃事務所	大渡町一丁目 253-1009	
南部清掃事務所	六供町 221-0020	
大胡クリーンセンター	堀越町 283-4924	
市民体育館	上佐鳥町 265-0900	月曜を除く 午前9時～午後7時
児童文化センター	西片貝町五丁目 224-2548	月火曜を除く 午前9時～午後4時

用できない人や回収の間にくさんたまって困っている人は、近くの紙リサイクル庫を活用しましょう。

ただです。

昨年、市で製作したリサイクル探検隊「ゴミのゆくえを探る」のビデオなどを使い、市職員が分かりやすくゴミについて説明する「出前講座」もあります。各団体からの要望があれば会場へ出向いてくれるそうです。こうした機会も利用し、もう一度、みんなでゴミやリサイクルについて見直してみませんか。